3 実現に向けた戦略

3-1　実現に向けた行動目標 (P29 より主な施策を抜粋)

基本構想編に位置付けた施策は、公民連携により更に検討を進め、できるものから順次実施します。また、釧路駅周辺 (ゲートウェイ) の再整備に係る施策については、「事業構想編」の策定後、関係機関と協議を行いながら、事業化に向けた取組みを推進していきます。

まちづくり方針	▶事業化に向けてすぐ始めるもの 公民連携（公民連携により推進する取組） ▶都心部まちづくり計画【事業構想編】（2019（平成 31）年度以降策定予定）
ひがし北海道の拠点として、圏域の中核都市機能を担い、観光客の玄関口となるまち	▶釧路・根室連携地域の中核として、また釧路の“顔”となる駅前空間の再整備と景観づくり ▶駅周辺の拠点や集客力を高める広域的・高次都市機能の誘導 ▶市民や来訪者の利便性やニーズに対応した都市機能の集積や誘導 ▶防災・減災のための機能確保
商業・業務・観光機能が集積する賑わいあるまち	▶公民連携 商業機能等の事業活性化に向けた取組推進（店舗改築・再開発・創業支援等） ▶公民連携 商業や業務機能の利便性を図る環境づくり（既存ストックの活用による都市基盤整備） ▶公共施設等の既存ストックを活用した広域的都市機能の誘導・充実 ▶公民連携 食を楽しむ魅力的な空間づくりと市民、観光客が集まる賑わいの場づくり　など
自然環境や景観に優れた緑豊かな魅力あるまち	▶釧路の豊かな自然を楽しめる親水空間の形成 ▶公民連携 住宅ストックを活用した長期滞在者等の受け入れ物件の確保　など
生活利便性が高く、歩いて暮らせるまち	▶オープンスペース等を一体的に活用した滞留空間や歩行者ネットワークの形成　など
交通結節機能が高く、市民や来訪者の交流の拠点となるまち	▶駅南北の連続性や乗り継ぎ利便性に配慮した交通結節点の整備 ▶公民連携 賑わいを創出する歩行空間の利活用促進と公共交通網の再編 ▶観光イベントの実施による観光振興と賑わいの創出　など
災害に強く安全・安心に暮らせるまち	▶わかりやすい道路網の形成、防災・減災のための機能確保　など
※参考	他都市事例では、基本構想の検討から土地区画整理を含む事業完了まで概ね 20 年以上の期間を要する

3-2　市民・行政・民間の役割と推進体制 (P30)

施策の具体化や事業化を推進するため、市民、民間、行政が連携して取り組む体制を構築します。

釧路都心部まちづくり推進協議会 (準備会) : 有識者 (都市計画・交通計画・都市デザインの専門家) を含む検討組織

報　告 ⇑　⇓ 意見・助言

釧路都心部まちづくり推進会議：**釧路市の内部検討組織**

・計画の進捗ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ、下記３チームの検討テーマ・課題の設定を図り、各チームへ検討依頼
・計画の進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを検討

庁内連携プロジェクト 推進チーム（仮）	**公民連携**プロジェクト 推進チーム（仮）	**駅周辺まちづくり** 推進チーム（仮）
・部署を横断する庁内連携プロジェクト（施策）の検討・推進について主体となるチーム 《対象分野》 企画・商業・観光 都市整備　など	・公民の枠に捉われない行動するプレーヤーの集まりであり、公民連携プロジェクト（施策）の検討・推進について主体となるチーム 《想定メンバー》 市・公益団体・地元商業者 市内で活躍する民間プレイヤー	・駅周辺の施策の具体化の検討・推進について主体となるチーム **駅周辺整備会議**：「つくる」会議 駅前広場の再整備や、周辺土地利用に関する意見交換の場 駅前の広場空間の利活用や、駅前空間の景観やデザインに関する意見交換の場 **駅前利活用会議**：「つかう」会議

釧路都心部まちづくり計画 基本構想編
【概 要 版】

釧路都心部まちづくり計画は、釧路市の「顔」として、また、ひがし北海道の玄関口として、市民、民間事業者、行政が目指す都心部の将来の姿を共有し、連携して都心部の活性化に取り組むための指針となるものです。この計画は、基本構想編と事業構想編の二部構成からなるもので、本書は基本構想編として、都心部の将来の望ましい姿とその実現に向けたまちづくりの方向性及び施策の考え方を示すものです。これに基づき、施策の具体化に向けた事業構想編を 2019 年度以降に策定し、都心部まちづくりを推進します。

1 めざす都心部の将来像

市では、めざす都心部の将来像について、市民の皆さんによりわかりやすくイメージしていただくよう、この計画におけるキャッチフレーズ (愛称) をつけました。

リンク
RINK 釧路

Re:Innovation to Next generation , central Kushiro

～次世代に向けた釧路都心部のRe・Innovation～

まちとまちをつなぎRINK、訪れる人をおもてなし
ひととひとをつなぎRINK、交流やにぎわいをうみ
ひととまちをつなぎRINK、豊かな暮らしをつむぐ
釧路都心部へ、公と民の連携RINKにより
再生Re・Innovation し、次世代へ継承RINKする

※背景の模様は丸形のアイヌ文様で、平和、円満、豊かさなどを意味します。
※また、リンクが意味する“つなぐ”や“輪”を表しています。
※上記の意味を表すリンクの綴りは LINK ですが、“ 次世代に向けた釧路都心部の Re・Innovation”の英文の頭文字にかけて RINK と標記しています。

釧路都心部は、高度経済成長期の 1960 ～ 70 年代にかけて、釧路駅周辺の基盤整備や北大通の都市改造など、釧路駅を核に人口増加や自動車社会の到来に対応した Innovation[1] (革　新) が進み、多くの人が往来するひがし北海道の拠点として栄えてきました。

その後、人口減少・超高齢化社会の到来、都市の郊外化など様々な要因により、釧路都心部にかつての人の往来がなくなっています。また、約５０年前に整備した交通インフラの老朽化や大規模災害発生のリスクの高まりへの対応など、先送りできない課題が顕在化しつつあります。

これらの課題や、いま・これからの新しい時代に対応した釧路都心部の Re[2]・Innovation (再　生) を、公民連携により推進し、ひがし北海道の顔となる“人”が集う交流とにぎわいの拠点、多様なライフスタイルに対応した豊かな暮らしの拠点として、次世代に継承します。

1 イノベーション (Innovation)　“旧来のものに代わって新しいものが登場すること、革新されること”を意味する英単語
2 リ (Re)　“また、再び、新たに”を意味する英単語

２０１９(平成３１)年３月
釧　路　市
資料作成：　総合政策部　都市計画課

2 まちづくり方針と施策の方向性及び施策展開について

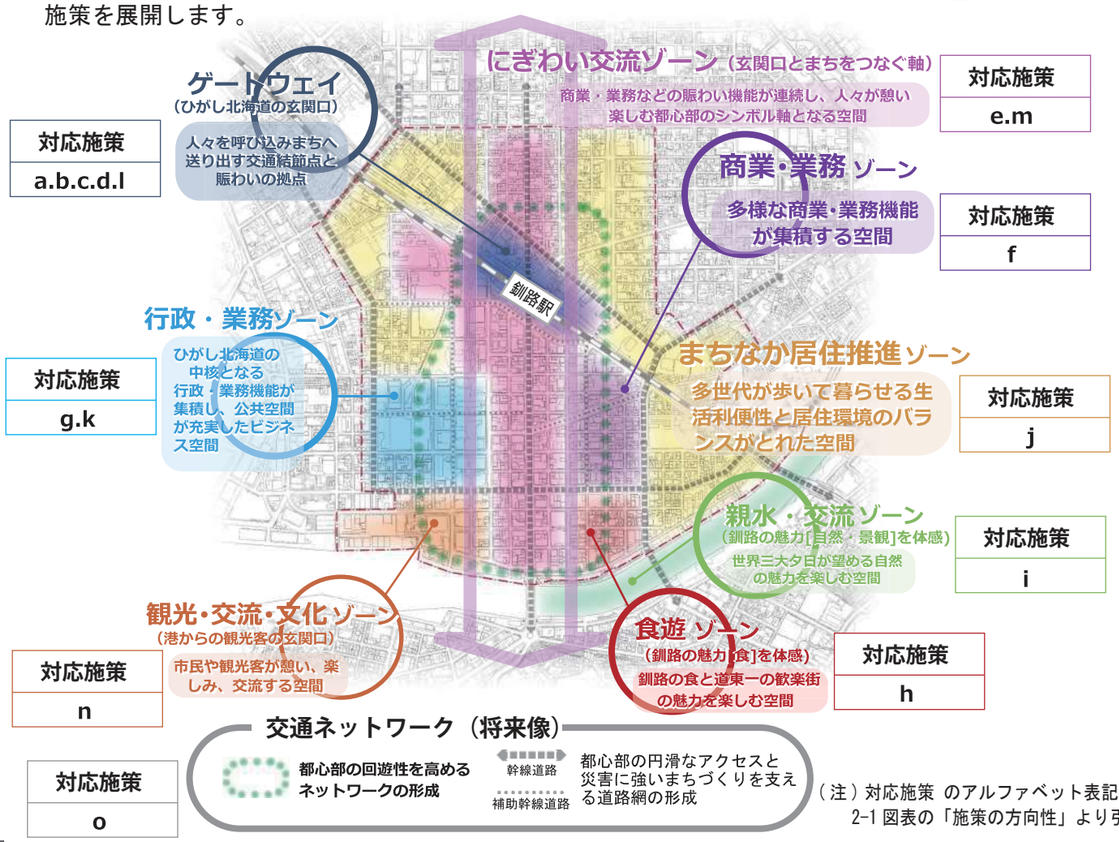
2-1 6つのまちづくり方針と施策の方向性 (P15 より抜粋)

市は、「都心部まちづくりを進めるうえでの課題」を整理した上で、それを踏まえ「まちづくりの方針」と「施策の方向性」をまとめました。

都心部まちづくりを進めるうえでの課題 (現状と課題)		将来像	6つのまちづくり方針	施策の方向性 (抜粋)
都心部の機能強化 (波及効果の高いまちづくり)	○中核都市としての高次都市機能の持続的な確保・強化 ○老朽化した都市インフラ（跨線橋等）の更新に合わせた波及効果の高いまちづくりの推進	RINK 釧路 **次世代に向けた釧路都心部の Re・Innovation**	**ひがし北海道の拠点として、圏域の中核機能を担い、観光客の玄関口となるまち**	a. 釧路・根室連携地域の中核として、また釧路の“顔”となる駅周辺空間の再整備と景観づくり b. 駅周辺の拠点性や集客力を高める広域的・高次都市機能の誘導 c. 市民や来訪者の利便性やニーズに対応した都市機能の集積や誘導 d. 防災・減災のための機能確保
観光ポテンシャル等の発揮 (観光や長期滞在など釧路の伸びしろを活かしたまちづくり)	○都心部と観光資源を結ぶ交通ネットワーク機能の強化による観光ルートの構築 ○都心部で長期滞在する魅力づくりに向けた取組みの推進		**商業・業務・観光機能が集積する賑わいあるまち**	e. 商業機能等の事業活性化に向けた取組推進 (店舗改築・再開発・創業支援等) f. 商業や業務機能の利便性を図る環境づくり (既存ストックの活用による都市基盤整備等) g. 公共施設等の既存ストックを活用した広域的都市機能の誘導・充実 h. 食を楽しむ魅力的な空間づくりと市民、観光客が集まる賑わいの場づくり **など**
商業機能の活性化 (地域にも来訪者にも魅力あるまちづくり)	○地域生活に密着した商業環境づくりの推進 ○来訪者の顧客ニーズをとらえた魅力的な商業環境づくりの推進		**自然環境や景観に優れた緑豊かな魅力あるまち**	i. 釧路の豊かな自然を楽しめる親水空間の形成 j. 住宅ストックを活用した長期滞在者等の受け入れ物件の確保 **など**
公民連携による取組 (民間とともに育むまちづくり)	○まちづくりの担い手との連携による既存ストック（遊休不動産や低未利用地）を活用したまちづくり推進		**生活利便性が高く、歩いて暮らせるまち**	k. オープンスペースや道路空間を一体的に活用した滞留空間や、周辺エリアとの回遊性を高める歩行者ネットワークの形成 **など**
大規模災害への対応 (災害に強いまちづくり)	○避難体制の構築とともに、円滑な避難に資する都市基盤の再整備の推進		**交通結節機能が高く、市民や来訪者の交流の拠点となるまち**	l. 駅南北の連続性や乗り継ぎ利便性に配慮した交通結節点の整備 m. 賑わいを創出する歩行空間の利活用促進と公共交通網の再編 n. 観光イベントの実施による観光振興と賑わいの創出 **など**
			災害に強く安全・安心に暮らせるまち	o. 都心部への円滑なアクセスと災害に強いまちづくりを支えるわかりやすい道路網の形成 **など**

2-2 施策展開に向けたゾーニング及びネットワークの設定 (P17)

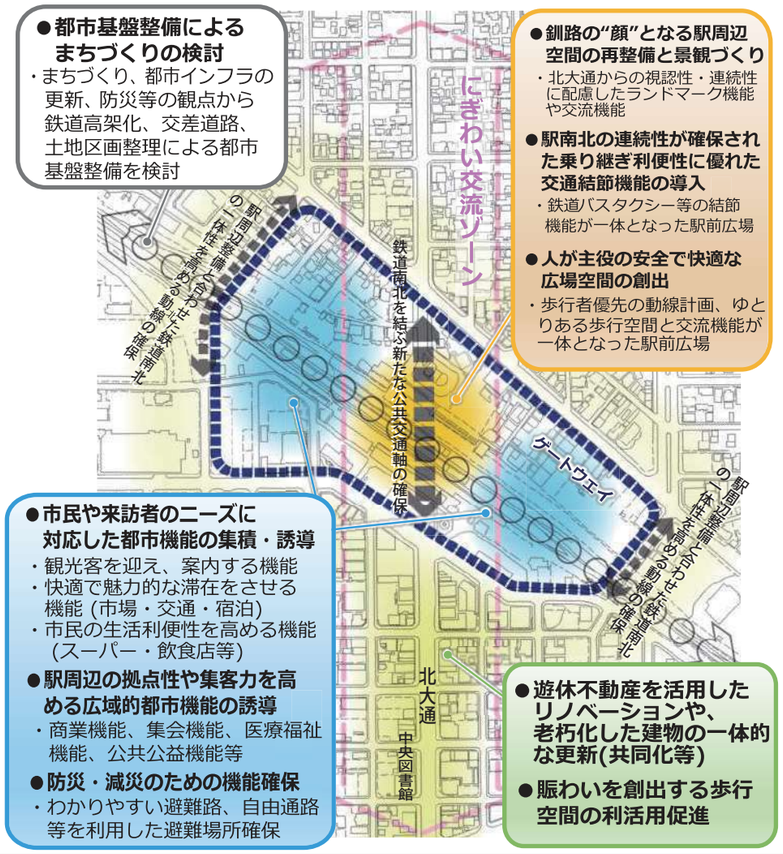
都心部の各エリアは、北大通を軸として商業・行政・業務・居住等の機能が集積しています。
各エリアの特性を踏まえたゾーニング及びネットワークを設定し、まちづくり方針に基づく各施策を展開します。



（注）対応施策 のアルファベット表記は 2-1 図表の「施策の方向性」より引用

2-3 釧路駅周辺（ゲートウェイ）の再整備イメージ (P２７)

ゲートウェイにおける施策の方向性を踏まえ、釧路駅周辺の再整備イメージを以下のとおりとします。



○まちの “顔” づくりが進められている北海道内他都市の駅周辺整備事例

旭川駅　2014 年整備　出典：旭川市 HP

岩見沢駅　2009 年整備　出典：岩見沢市 HP